場面	帰りの会から下校時
児童のサイン	□ ①配布物が、特定の児童だけに渡らない。 □ ②帰りの会で、いつも特定の児童だけが取り上げられる。 □ ③何か起こると、いつも特定の児童のせいにされる。 □ ④下校の時間が近くになると、不安そうな表情が見え、落ち着かない。 □ ⑤帰りの会が終わっても、用事がないのに教室に残っている。 □ ⑥帰りの会の後、用事がないのに教師や保健室の周りをうろうろしている □ ⑦朝や昼には見られなかった衣服の汚れや擦り傷等が見られる。 □ ⑧特に理由もないのに、いつも一人で急いで下校する。 □ ⑨教師の目の届きにくい場所に友だちが（待ち伏せ）いて、一緒に帰る。 □ ⑩いつも友だちの荷物を持たされている。 □ ⑪帰る時になって、特定の児童の靴や持ち物がなくなっており、捜してもなかなか見つからない。
教師の手だて	□ ①帰りの会の運営については適時、支援・指導する。 □ ②今日一日の生活を振り返らせ、自己を見つめさせるような工夫をする。 □ ③帰りの会を連絡だけで終わりにせず、相互の心の交流を図る場として充実させる。 □ ④よかったこと、うれしかったことなどを認め合い、賞賛し合う時間を確保する。 □ ⑤教師から見た、よかったことや反省すべきことなどを話し、明日への意欲付けを行う。 □ ⑥お互いが気持ちよく『さようなら』ができるように工夫する。 □ ⑦『さようなら』の時、児童の表情を観察し、普段と変わらないかどうか確認をする。 □ ⑧友だちと一緒に複数で帰るように促す。 □ ⑨問題を抱えた児童に対しての個別相談を行う。